

水稲育苗箱(ダイヤトレ)の実用性確認試験

JAとうや湖

岡崎 真琴



右の手前が試験区、草丈がそろっている



試験区 育苗箱の外に根が出ず剥がしやすい



試験区 苗箱からも簡単に剥がせる



慣行区 根が床土まで伸び、剥がしにくい



慣行区 苗箱からも苗が取れない

試験目的

水稲育苗箱(ダイヤトレ)の実用性確認試験

試験作物及び品種

水稲(おぼろづき)

試験資材及び数量(規格)

水稲育苗箱(ダイヤトレ) 100枚

慣行資材

通常 of 育苗箱

栽培方法

播種日	定植日(田植え)	収穫日
慣行区:4月21日 試験区:4月21日	慣行区:5月25日 試験区:5月25日	慣行区:9月22日 試験区:9月22日

資材使用期間

4月21日~5月25日

試験区面積

3000㎡(3反)

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

試験区は、根が育苗箱の外に出ない構造になっており、育苗箱を剥がす作業も、苗を箱から出す作業も全く抵抗がなく非常に楽であった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

同じハウス内で試験をし、従来通り毎日灌水した条件下で、試験区の方が草丈が短かった。慣行区の生育が良かったのは根が箱下に伸び土までいっている影響があると考えられる。試験区は草丈がそろい均一になっているのが良かった。草丈は不織布等の被覆により調整できるので問題ない。保水性は試験区の方が良かった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：根が箱下に伸びないため育苗箱を剥がす作業や箱から苗を取る作業が非常に楽である。

【問題点】：資材コストが高い。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行の育苗箱は10年以上使用できているため、試験品のダイヤトレも同じくらい使用したい。

モニター感想

従来は、防草シートを敷いても箱下に伸びた根が床下の土まで届き、育苗箱を剥がす作業が男性でも大変であった。それを数百から数千枚分作業するので体への負担が大きかった。

ダイヤトレを使用することで根が箱下に伸びず、簡単に剥がすことができるため作業が非常に楽になる。とても良い資材であるが、コストが高いためもう少し安くなってくればダイヤトレに切り替えていきたい。

JA担当者の感想(資材課 畠山 氏)

組合員の高齢化や人手不足が深刻な状況になっている中で、作業効率アップや労働力軽減を図ることのできる優れた資材であると感じた。しかし価格が高いのが難点であるため、もう少し安く供給できれば組合員も納得して使用してもらえる資材になると思う。

今後の使用について

改良して欲しい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 クリントート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他